

都道府県別賞一等

人と人との支え合い

宮崎県 鵬翔中学校 三学年

上杉 葵

私は生命保険のことを、自分たちのクッションになってくれるものだと思います。以前、私の祖父が手術をしました。私が小学校低学年くらいの頃だったので、何の手術をしていたのかは覚えていません。私は少しでも祖父を不安にさせないように、よく母と一緒にお見舞いに行っていました。祖父は私が来るといつも嬉しそうにしている、と母がよく言っていたのを覚えています。手術当日、私は学校があったため、直前に会って話すことはできませんでした。母が「手術している間、ずっと病院にいて疲れた。」と言っていました。顔はホッとしていました。手術は無事に成功し、祖父はリハビリを終えて退院しました。祖父の入院から退院までを支えてくれた医療関係の人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。だけれど、その土台となり、祖父が十分な治療を受けられるようにしてくれたのは、生命保険です。当時の私は気づいていませんでしたが、中学三年生となり、こうして生命保険について触れ合う機会のお陰で生命保険という存在に気づかせてくれました。影が見えないだけで、生命保険は人々の支えになっているんだなあと実感しました。だから私は、誰かが転んだ時があると助かるような、自分の身を守ってくれるような存在という意味を込めて、クッションと呼んでいます。センスのある言い方ではないし、素朴だけれど、生命保険という土台を表すのに、ぴったりなものだと思います。そして、転んだ時に、身を守ってくれるクッションがあるかないかも自分自身だと気がつきました。もし生命保険に入っていなかったら、自分を最後までサポートしてくれるものはありません。全て自力で立ち上がらないといけないのです。しかし、生命保険に入っていたら、顔も知らない人たちの支えによって、ゆっくりと立ち上がることができます。今まで自分は関係ないし、若いころはまだいいかなと考えていた自分に気がきました。更に、生命保険は未来の自分への投資なのかなあと思いました。将来やりたいことをやるにはやはり、健康体で思うままにやりたいです。もし、重大な事故に巻きこまれてしまったら。後遺症が出てしまったら。自分がやりたいことを、思いのままにできないかもしれません。そんなことにならないように、もしもの時のクッションを用意しておくのはどうでしょう。クッションがあれば未来の自分を健康に保つ、という自分への投資になるかもしれません。

また、生命保険に入っていたら、困っている誰かを支えることもできます。

第61回中学生作文コンクール

生命保険とは「助け合いの輪」なのです。困っている人の人助けにもなり、自分のもしもの時にも支えてくれる、そんな存在なのです。人と人の強いつながりを深く感じずにはいられませんでした。

私たちにとって、生命保険に入るとはとても重要なのだと様々なことを通して知りました。私には、将来やりたいことがたくさんあります。家でもできることや、アクティブなことまでたくさん。

だから私は今のうちに生命保険に入ることを考え、色々な保険を見てみたいです。